

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	学校法人湘南学院校舎	階数	地上4階
建設地	横須賀市佐原二丁目33番1、36番5	構造	RC造
用途地域	工専地域 佐原2丁目地区計画地域	平均居住人員	1,600 人
気候区分		年間使用時間	3,750 時間/年
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2013年3月 予定	評価の実施日	2012年2月15日
敷地面積	15,592 m ²	作成者	株式会社フジタ
建築面積	6,024 m ²	確認日	2012年2月15日
延床面積	14,216 m ²	確認者	株式会社フジタ



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 84%

上記+ 以外のオンサイト手法: 84%

上記+ オフサイト手法: 84%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 3

Q3 室外環境(敷地内): 3

LR1 エネルギー: 4

LR2 資源・マテリアル: 3.5

LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 各棟に囲われた中庭状となる空間をつくり学校生活のコミュニティの場となるようにし、また、周辺近隣への騒音等の低減をはかるようにしている。また境界付近を緑化することでも周辺環境への配慮している。高効率の照明器具、全熱交換機の採用、節水器具の採用等の設備計画により環境負荷への低減に努めている。		その他 -
Q1 室内環境 ■温熱環境に配慮 ■光・視環境に配慮(適切な昼光率及び照明照度など) ■空気質環境に配慮(F をほぼ全面的に採用/適切な自然換気有効開口面積など)	Q2 サービス性能 ■機能性(バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満足/高天井など) ■耐用性・信頼性の向上(耐用年数の長い建材の採用など)	Q3 室外環境(敷地内) ■生物環境の創出(多種多様な植栽、季節感を感じる植栽など) ■温熱環境への配慮(高い位置(屋根)で設備機器の排熱、中高木の植栽による日影の形成など)
LR1 エネルギー ■建物の熱負荷抑制(断熱材の強化、バルコニー(庇)による熱負荷軽減) ■高効率機器の採用	LR2 資源・マテリアル ■水資源保護(自動水栓及び節水型便器の採用など) ■リサイクル材の採用 ■再利用可能な部材の採用(OAフロア、可動間仕切り)	LR3 敷地外環境 ■大気汚染への配慮(燃焼機器を使用しない) ■交通負荷抑制(適切な駐車場及び駐輪場の設置、公共交通機関を利用したの通勤など)

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい